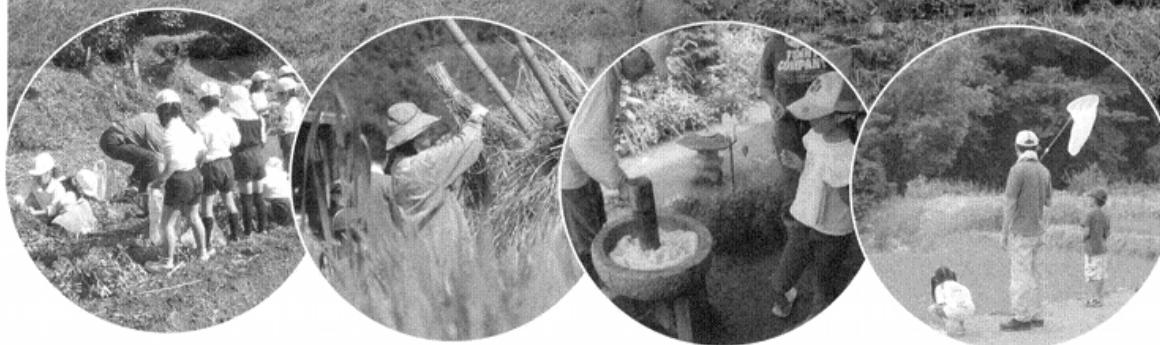


# 謹賀新年



No. 89

発行責任者

山本 保

事務局 東新町2-10

市民オフィス内

TEL. 71-7700

FAX. 71-7800

[http://  
www.1.kcn.ne.jp/~forum/](http://www.1.kcn.ne.jp/~forum/)  
E-mail: forum@kcn.ne.jp

● 市民ネットワークをめざそう！  
● 情報公開・政治理論の確立で、市  
民参加の開かれた市政をめざそう  
● 環境・教育・福祉・学研バイオ研究  
についてのご意見をお寄せ下さい

あけましておめでとうございます

▼昨年の生駒市は激動の一年でした。

統一地方自治体選挙のさなか、市の公共事業や  
公有地の取得をめぐる不正・汚職が発覚、前市長、  
前市議会議長が逮捕される事態となりました。

その後の市政改革、議会改革はまだ端緒につい  
たばかりです。これからもその動向を市民の目で  
注視していかなければなりません。

▼一方で新しい公共をつくる試みがこの生駒でも  
広がってきました。政策をつくる段階で市民が参  
加することも徐々に進んでいます。また今年は生  
駒の憲法、自治基本条例づくりが本格化します。  
こうした試みを決して一過性ものとせず、生駒の  
市民自治を変わることのない仕組みとして確かな  
ものにしなければなりません。

▼格差社会、そして少子高齢化の進行は私たちの  
地域にも及んでいます。効率優先の思考もまだ大  
手を振って歩いています。そのなかで地域の中の  
結びつきは希薄となりつつあります。生駒でも地  
域再生が大きな課題です。

\* \* \* \* \*

▼いま一度、生駒をよく知り、よく見て、考え、  
そして行動し未来の生駒のまちづくりをすすめた  
い。子どもたちが未来に夢をもち、誰もが自分ら  
しく生きられる生駒をめざしたい。  
そんな思いで生駒フォーラムは今年も発信し、  
行動します。

# 今年も生駒から、 地産地消・スローな社会をめざして

五  
反原の  
里山  
だより

あけましておめでとうございます。

里山を守る会『五反原の里』が発足して8年目の新年を迎えることができました。

振り返って見みると、高柳さん（生駒フォーラム編集長）が「暗峠を源流とする神田川には棚田があり生駒石など、昔の姿のまま自然が残っているよ」と声をかけたことがわたしたちが五反原の里の取り組みをはじめるきっかけでした。

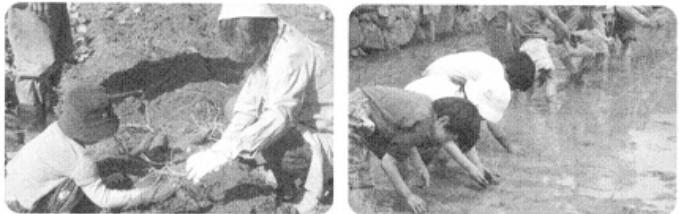
おかげさまで小平尾の地域のみなさんの好意と協力で休耕地を開放していただき市民ボランティアの会員が力をあわせ熱意と努力で昔懐かしい里山を再生することができました。

日曜や休日ともなれば四季おりおりにうつろう五反原の里に、近くの幼稚園、保育園の園児、小学校の子どもや父母の皆さんが来られ、素晴らしい自然環境の中で、野外体験を満喫していただいている。

のびのびと駆け回る子どもたちの姿を見ていると、世の中に役立っているのだと自己満足しています。

会員自らもそれぞれ都合の良い日と時間に来りし、地産地消をめざし無農薬の野菜づくりや米づくりなど農作業に励んでいます。

7年も経過すると会員の高齢化も避けられず若い人たちの参加を求めていたところ今年からすばらしい若者、石尾さんが参加してくれます。



## これから私がめざす「農」業 石尾さん（生駒市在住）

### ◎基本は「食べもの」をつくる

農業と言っても幅が広いです。

農業や化学肥料などを使い大規模に一つの作物を商品としてつくる。これも農業。自然のなかで、自給自足を基本に無農薬・無化学肥料で多品目の作物をつくる。これも農業。

どの農法が良くて悪くてというわけではありません。いろいろな視点があり、いろいろな考え方があると思います。

私は、作物を商品としてつくるのではなく、“作物を「食べもの」として育てていきたい”ここから、広げていこうと考えています。要は、“今、日本の有機農業をやっている多くの農家さんの暮らし”をめざしていこうと思います。

まずは、自分の生活の豊かな自給が基本。

次に、（食べるものに）理解ある人たちの家族に、無農薬・無化学肥料でつくった野菜を宅配。多少のお金をおねだり。

→現在の日本の社会のなかでは、少しのお金が必要です。まったく世の中と関係なく暮らす生き方をしている人たちも多くいますが（その生き方も魅力的ですが）、私は、こだわり過ぎず、でも、こだわって、肩に力を入れすぎず生きてみたいです。

当面、2~3年は、土作り。そこから！

新規で有機農業をはじめられた農家さんが、みんな言われていることですが、2~3年は、満足のいく作物は採れません。その過程を楽しんで暮らせるかどうかが続くかどうかの分かれ道だそうですね。

この間に、理解ある人たちとの繋がりをきずいていきたいです。

### ◎「食べもの」とは（私の考え）

人間、当たり前ですが生きています。

これも当たり前ですが、人間は食べないと生きていけません。

この人間が食べるものとはなにかといえば、（これも当たり前ですが）命あるものです。

命あるものの命を奪って食べています。

毎日食べているお米も、1粒1粒が命のかたまり。

今、なにげなく食べているお肉は、生きている動物の命を奪って食べている。

人間は、「お金の恵みのめぐり」の中で生きている以前に、「自然の恵みのめぐり」の中で生かされています。

食べものは自然の中で、精一杯育てる。

おいしくつくって、美味しいとください。

このおいしいものは、命一杯に生きたもの。

これをいただいて、感謝一杯に生きる。

ヒトが、生きている、生かされていると実感できる瞬間（数多くあると思いますが……）、

「食べる」という瞬間、

これは、自分が生きている、生かされている感じる得難い瞬間ではないでしょうか！

### ◎農作業

#### ・森がお手本。

自然の森の木は、人間が化学肥料や農薬など使わないでも、何百年も生き続ける。

人が（大自然と比べると）ちっぽけな頭で、自然をコントロール出来ているなど、思い上がりもいいところだ。ヒトは自然の中で生かされている。

私は、できるだけ自然の中にあるものを利用して、自分の知恵を使って野菜を育てていこうと考えています。（必要な範囲で、石油も文明の利器も利用はしますが、極力使わないようにしたいです。）

#### ・地のもの旬のものをつくる（身土不二）

春は、冬の栄養不足を補うために少し苦みのある山菜

夏は、体を冷やす夏野菜（きゅうりなど）

秋は、冬に向けてカボチャやニンジン

自然是、その土地に暮らすヒトに必要なときに必要な栄養をその土地の植物が与えてくれます。1ヶ月に1度くらいのハレの日があってよいと思いますが、毎日、常夏から輸入された食べ物をたべると、人間の中の自然のリズムが狂います。

### ◎夢

農業に軸足をしっかりのせることができた後、寺子屋みたいな形のフリースクールをつくり、いろいろな人、命の大切さ・尊さと一緒に感じていけばと思っています。

平成19年12月

皆さんの中に石尾さんの考え方や生き方に共鳴される方がおられましたら是非ご連絡していただければ幸いです。

連絡先 五反原の里事務局（合田） 090-8467-2770

# 新企画 = 知る・見る・考える そして生駒を変える

## 社会のしくみを考える連続講座

### プロローグ

経済を知るために教科書的な「経済学」を学ぶよりもまず、私たちが経験してきた実際の経済が時とともにどう変わってきたのかを振り返ってみましょう。そしてなぜ経済がこのように変化していくのか。その背景にある政治=政策が経済にあたえたインパクトはどんなものなのか。政策を実行してきた意図は何なのか。その意図を生み出す人間社会の構造とはどんなものなのか。それらを知ることができればこれから社会を見通す大きな力となるでしょう。

私たちが経験した時代の中で、バブルが始まる以前の「昭和」の時代とバブル崩壊後の「平成」の時代を振り返ってみましょう。この間はあらゆる経済的要因、政治的要因が対照的に異なっています。これは明らかに社会構造、経済構造、政治の仕組みがこの二つの時代で全く変化したことを意味しています。

日本は戦前から一貫して中央集権的国家だったといわれています。とするとこの変化もまた社会的変化、影響を期待する中央官庁の意図によって進められた政策の結果と考えられないでしょうか。

その意図による政策と経済を知り、考えることができれば社会の根本的な変化の原因と今後の動きを知ることができるのではないでしょうか。

今年は大きな社会構造を見る眼と身近な自治を考える連続講座を企画します。

| 社会的要因     | 戦後の昭和の時代     | バブル崩壊後の平成の時代   |
|-----------|--------------|----------------|
| 政権        | 派閥中心         | ポピュリズム、人気、投票中心 |
| 取引関係      | 談合、慣れ合い中心    | 法令遵守(コンプライアンス) |
| 企業の所有者    | 経営者          | 株主             |
| 産業の中心     | 建築土木         | 金融             |
| 経済成長      | 高い           | 低い             |
| 外国人投資家    | 少ない          | 多い             |
| 為替動向      | 円安           | 円高             |
| 金利        | 高い           | 低い             |
| 素材関係:原油価格 | 低い           | 高い             |
| 鉄鋼        | 低い           | 高い             |
| 不動産       | 高い           | 安定             |
| 証券市場      | 不活発(株式の持ち合い) | 活発 個人投資家       |
| 外国企業の提携   | 少ない          | 活発             |
| M&A       | 少ない          | 活発             |
| 所得格差      | あまりない        | 顕著に高くなる        |
| 失業率       | 低い           | 高い             |
| 外国人労働者    | 少ない          | 多い             |

### 第1回講座「社会のしくみを考える～プロローグ」

- ◆とき 2月10日(日曜日) 午後2時から
- ◆ところ セイセイビル 4F(401号室)
- ◆お問い合わせ 生駒フォーラム(71-7700)まで

### 連続講座I 経済の変遷をふりかえる

#### 知っておきたい経済知識

バブル生成期  
(1987年～1990年)

公定歩合引き下げ  
↓  
「お金の量」と「物価」の関係

バブル崩壊期  
(1991年～1997年)

公定歩合引き上げ  
↓  
「お金の量」と「物価」の関係  
総量規制  
不良債権と経済に与える影響

経済再生  
(1998年～2005年)

不良債権処理  
金融行政が与える産業構造の変化  
BIS規制 証券市場の健全化

経済トピックス

- ▶ コンプライアンス コーポレートガバナンス
- 投資ファンド 個人投資家
- デリバティブ・金融商品 サブプライム問題

### 連続講座II 生駒の自治を考える

#### 市民自治の基本的な考え方

新しい総合計画  
を考える

第4次総合計画は何が問題だったのか。  
“絵に描いた餅”ではなく具体性ある  
まちづくりを市民の視点で考える。

自治基本条例は  
何をめざす？

生駒市の憲法「自治基本条例」  
これからのまちづくりの指針となる条例を  
あらためて学ぶ。

新しい公共とは？

市民参加、協働でつくる新しい公共。  
行政だけが公共サービスの主体ではない。  
新しい公共の課題、展望を考える。

### 連続講座ユニークなまちをつくる

マイナリティの視点から考えるユニークなまちづくり。  
誰にとっても住みやすい、生きやすいまちづくりを考えます。



### 会員募集中

NPO法人  
**「あぐり」**

市民農園の運営支援や農業技術の習得、  
授業、農業体験など、「あぐり」の活動  
に参加していただく会員を募っています。  
多くの皆さんをお待ちしています。

申込み ●NPO法人「あぐり」●  
電話 75-0084

### 市民農園の入園者を募集！

生駒フォーラム市民農園が南田原  
と小平尾で開設され、10年になろう  
としています。土の感触、野菜の力  
強さ、季節の変化などを感じてみま  
せんか。土に働きかけた分、正直に  
実りとなって帰ってきます。

\*入会金 1000円 入園料 7000円

\*面積 10坪～15坪です。

\*詳細は Tel 75-0084 まで



### 中国語教室を始めます！

身近な国際交流をしてみませんか？  
ネイティブな講師が丁寧に教えます。

\*曜日月(夕方～)

水(午前 午後)

土(午後～)

講師 張 飛飛

(ちょう ふいひえい)

中国南京出身、生駒在住。

元中国江蘇省万集中学校教師。現

在、司法通訳・中国語講師に携わ

り、生駒国際交流協会理事を務め

る。

\*個人レッスン 2000円/1時間

\*グループレッスン(4人～8人

まで) 1500円/1時間半

\*詳細は電話(71-7700)に

て尋ねてください。

いま、暮らしを変えよう！ 合成洗剤は河川を汚す！ セッケンを使いましょう！

# 新病院、学研高山地区、生駒の課題 その行方は？

## 学研高山第2工区をめぐる経過

- 1987年6月 「関西学術研究都市建設促進法」公布・施行
- 1990年7月 高山地区第1工区開発はじまる
- 1993年8月 地元自治会から市長へ第2工区開発促進要望
- 1994年3月 公団が第2工区の用地買収開始
- 1996年3月 用地買取終了
- 1997年4月 「関西学術研究都市の建設に関する基本方針」変更（高山地区的区域拡大に伴う計画フレームの変更など）
- 2000年11月 第2工区の都市計画決定告示
- 2003年5月 衆議院国土交通委員会で公団理事が第2工区の段階的整備の方針、間接補助制度導入の方針を表明
- 9月 市議会で段階的整備に対応した事業費の公表（約25億円）
- 10月 公団がオオタカの営業跡を確認
- 11月 市議会臨時会で住民投票条例が否決
- 12月 高山地区オオタカ調査検討会発足、以降05年8月まで8回開催
- 2004年7月 都市公団が独立行政法人「都市再生機構(UR)」に
- 2007年4月 「関西学術研究都市の建設に関する基本方針」変更
- 6月 市が第2工区独自計画案をURに提示
- 7月 URが事業再評価の結果として高山地区特定土地区画整理事業の事業中止を決定
- 12月 市が議会に対し高山第1工区、北田原地区への企業誘致プロジェクトチームの設置を報告

従来、高山地区は国の「関西学術研究都市の建設に関する基本方針」において「文化学術研究施設及び住宅施設の整備を推進する」と位置しました。

一方、市は高山第一工区へ企業誘致をめざし、市役所内にプロジェクトチームを設置しました。

一方、市は高山第一工区へ企業誘致をめざし、市役所内にプロジェクトチームを設置しました。

従来、高山地区は国の「関西学術研究都市の建設に関する基本方針」において「文化学術研究施設及び住宅施設の整備を推進する」とされていました。

しかし、昨年この方針が「文化学術研究施設等及び住宅施設の整備を推進する」とさ

れていました。現在、市の「基本方針」に基づいてつくられた県の「建設設計画」は変更されており、それに沿ってつくられる生駒市地区計画もまた変更されてしまっています。プロジェクトチームは計画変更にともない予想される課題を研究することになるものと思われます。

しかし、まず問われるのは

予定だった都市再生機構(UR)が事業の中止を決定して以降、その行方が見えないまま時間が推移しています。

### ●企業誘致プロジェクト

研究施設に「等」の一文字が加えられたのです。これにより市は、高山第一工区の利用目的の範囲が広がったことから積極的に企業誘致につとめ税収の拡大を図りたいようです。

●問われる環境対策

現在、国の「基本方針」に基づいてつくられた県の「建設設計画」は変更されており、それに沿ってつくられる生駒市地区計画もまた変更されてしまっています。プロジェクトチームは計画変更にともない予想される課題を研究することになるものと思われます。

しかし、まず問われるのは

高山第二工区の事業中止、そして第一工区へは企業誘致？

環境保全の対策です。研究施設を前提としてつくられた現在の「高山地区環境保全対策

●どうなる？ 生駒の地域医療

●再び方針転換

その後、市はあらためて西和医療圈にある二七四床のベッド数を前提に交渉を再開しました。さらに建設用地は会

議とすると時間がないとの理由で公募を強行する。さらに自ら示したスケジュールを自ら逸脱していく。これでは民主主義

の手続きを軽視していると言わざるを得ません。

●後継病院に求められていたこと

生駒総合病院の後継医療機関には総合病院が果たしてきた地域医療の中での役割を引き継ぎ中核的存在となること

が求められています。

●地域医療の確立を

国保連合会、県、市にはそ

の役割を果たしたのは当初から大学病院などの公的医療機関だという共通認識があつたはずです。

今後、民間医療法人と協議が進められるとしても求められる役割に変わりはありません。

●情報の透明化

地元の公的医療機関、二つの民間医療法人との交渉が難航しつつ継続していた中、市の民間医療法人との交渉が難航しつつ継続していた中、市は突然運営主体の公募を行なうと議会に報告、一月一日から三〇日まで公募が行われ、民間医療法人徳洲会一つのみがこれに応じました。建設用

生駒総合病院にあった一九六床のベッド数は同病院跡地で新病院建設を市が断念したことからいたたん西和医療圈に戻される形となりました

が、昨年三月時点で医療圈には二七四のベッドがありました。これまで市が設置した総合病院後医療に関する検討委員会の「提言」、新病院整備専門員会の「中間答申」はいずれもこの一九六床を前提としていました。

●交渉条件の変更を事前に明かさず

ところが昨年四月、市は三つの公的医療機関に対し、新病院のベッド数は一〇〇床程度に縮小、建設場所は東生駒二丁目の会社跡地とする新しい構想案を示し交渉していました。

このことは「整備専門委員会」に示されず、議会へも報告がな

まま進められました。

結果として六月から七月ま

でに三医療機関はいずれも指

管理者となる意向がないと回答、交渉は不調に終わりました。

このことは「整備専門委員会」に示されず、議会へも報告がないまま進められました。

このことは「整備専門委員会」に示されず、議会へも報告がないまま進められました。

この間、市は方針変更を自ら設置した「整備専門委員会」に諮ることなく進められてしまいました。

議会に事前に諮ることなく進めることが少なからずありました。不可解な方針変更を

公募を行うことについても「整備専門委員会」に諮ることなく進められました。

公募を行なうことについても「整備専門委員会」に諮ることなく進められました。

公募を行なうことについても「整備専門委員会」に諮ることなく進められました。

市は度重なる方針変更に見られた不透明な進め方をあらため、情報公開と説明責任をしっかりと果たしつつ地域医療の確立に努めるべきです。

●問題残る市の手法

この間、市は方針変更を自

ら設置した「整備専門委員会」

や議会に事前に諮ることなく

進めることが少なからずあり

ました。不可解な方針変更を

交渉は不調に終わりました。

まだ見えてこない後医療の姿

